



宇宙にいったみたいー

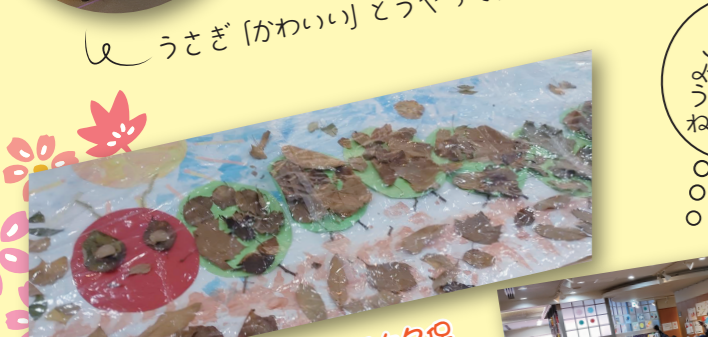


大久保わかくさ子ども園



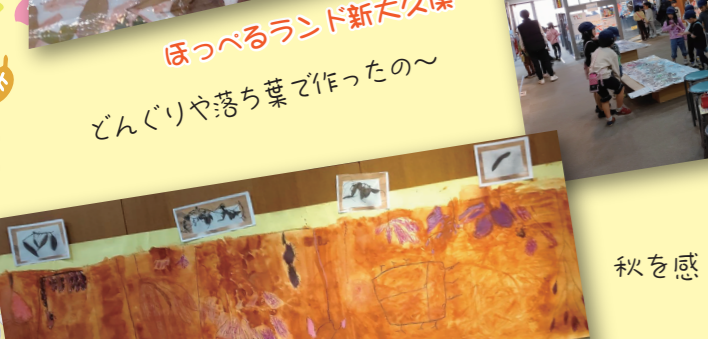
お芋を食べたくなりました

船もかいてみたいー



“あったよ”みんなじょうずだね 帰ったらつくってみよう

船もかいてみたいー



ほっぺるランド新大久保

おいしそう 新栄保育園



秋を感じるね

教会もかいたよ

レッツゴー! 大久保地域センター

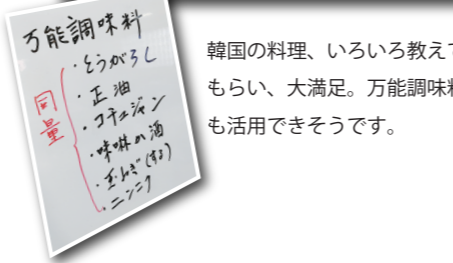
地域の幼稚園・保育園の園児たちの お絵かき作品展

多文化交流ワークショップ

世界を知る・世界を味わう講座 ～韓国編～ 大久保地域住民には身近だけど作ることがない 韓国家庭料理の定番レシピにチャレンジ 令和8年2月1日(日)



講師: 李 珍淑 (うわさのへそんちゃん 店主)



万能調味料 とうもろこし 玉ねぎ フライパン 味噌(和) 味噌(韓) シソ

韓国の料理、いろいろ教えてもらい、大満足。万能調味料も活用できそうです。

行事予定

大久保地域センター 五月まつり SATSUKI MATSURI 第30回 令和8年5月16日(土) 主催: 五月まつり実行委員会

- 盆踊り教室 令和8年7月19日(日)
手打ちうどん教室 令和8年8月3日(月)
朗読会「怪談話」 令和8年8月23日(日)
多文化交流ワークショップ 令和8年10月4日(日)

編集後記 新宿区には、福祉サービスがいろいろあります。106号の記事が皆様のお役に立てたら嬉しいです。地域センターでは来年度も楽しい行事を計画しています。多数のご参加をお待ちしております。

問い合わせ TEL 03(3209)3961 大久保地域センター FAX 03(3209)3962

Magical World (マジカルワールド) 多国籍の伝統舞踊体験!! 令和7年10月5日(日)



前回(R6.10.6開催)、好評を得た日本とインドの舞踊体験に続く第2弾。韓国の伝統舞踊チームが加わり、多国籍な伝統舞踊の世界が広がりました。

講師: 日本舞踊 花柳栄磨(はなやぎえいりやく) インド舞踊 Subhra Goswami(シェブラ・ゴスワミ) 韓国舞踊 鄭愛鎮(チョンアチン)

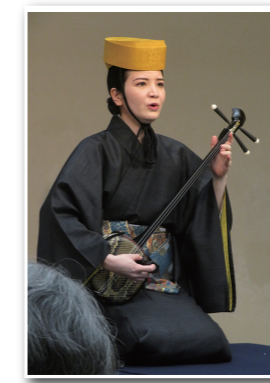
今年もカンタンに! おからで味噌づくり

- 材料(仕上がり600g・一人分) おからパウダー 50g 米麹 200g 無調整豆乳 250ml+50ml 塩 80g



簡単にできました。家でも作ってみよう!

日本の音曲あれこれ 琉球古典音楽(歌三線)演奏会



出演 親川 遥

- 目録 一、「かぎやて風節」 二、「こてい節」 三、「チークニー」 四、「舞踊局」 五、「與儀前田節」

花の生け方教室 菘玉

日本の伝統園芸・盆栽から派生したとされる『菘玉』土づくりから菘を張り糸でぐるぐる巻いて作ります。指導/みどり屋 和草(にこくさ)



南天の菘玉ができ上がりました。

4F: 多目的ホール

小学生の和太鼓・金管楽器演奏 とも達の合唱やダンスなど エンターテインメント

3F: 和室

民族舞踊・民謡・詩吟など 日頃の練習の成果を披露する 多文化芸能まつり

多文化芸能まつり

11月8日(土曜日) 秋はみんなの発表会 レッツゴー! 大久保地域センター 2025



西戸山ワラズ バントワリング



天神小学校 金管バンド 小学生の金管楽器演奏



戸山小学校 和太鼓クラブ 小学生の和太鼓演奏



新宿テコンドークラブ 韓国の国技テコンドーを披露



大久保二丁目会 百々寿会 円熟の合唱



鄭愛鎮韓国舞踊学院① 華やかな韓国舞踊 第一部



古典芸能サークル「錦」 伝統的な日本舞踊



鄭愛鎮韓国舞踊学院② 華やかな韓国舞踊 第二部



おはなしとどけ隊 小学生の絵本の朗読



大久保未来組 大江戸ダンス



日本詩吟学院岳風会 熟練の詩吟



もくれん会 現代的な民謡



エベレスト・インターナショナルスクール ネパールのこどもたちの民族舞踊



【ゲストバンド】ジャズ演奏 小川高生(サクセス)&竹内亜里紗(ピアノ)



ヨガ塾 リラックスヨガ



ベトナム勉強会 ベトナム音楽の生演奏と歌唱

【憩いの広場】3階: 会議室A

- 販売 焼ききたてパンの販売 新宿福祉作業所「エスポワール」のパン各種 大久保地域センターあんぱんを特別販売
無料 ベトナムコーヒーの試飲会 ★ベトナム特有の淹れたてコーヒーをサービス
無料 パンダ展 ★パナール展、パンダ基地の映像放映、ジャンケン大会



いつも、おいしいパンがいっぱい!



民謡同友会 ころも温まる民謡

高齢者疑似体験をしてみました

目 色がわかりません

白内障・緑内障・視野狭さ
くなど、ゴーグルを付けて原稿を読む体
験です。よ〜く見ないと見えない / 色は
黒ではなく紺色が見やすい / 赤や緑は見
えにくいし、黄色は全く見えない。特に
信号の色は赤・緑・黄なので判別しにくい



歩行 歩くのって大変

両足・両手・上体に重りを
付け、腰の曲がった状態にす
る / 首と足を引っ張って歩く・立つ時に
体が重くて大変! / 杖を利用してやっ
との思いで立つ / 歩く時は前を向くのも難
しく、下ばかり見ていた / 少しの障害物
を乗り越えるのも必死



手 届きません

自動販売機の上部の物が欲
しいけど取れない / コンビ
ニのおにぎり、食べたいのは
一番上の棚なのに届かない、誰かお願い



気付いたことがありました

街を歩いている人は、何の問題もなくサッサと歩いている人ばかりではなく、歩くだけでも苦労している人もいることが分かりました。ちょっとした道の段差は数多くあります。困っている人を見かけたら、声をかけてみようと思いました。また、高い場所の物を取ることが難しいことが実感でき、生活する大変さも理解できました。自分はそのような状態にならない、とは誰にも言い切れません。毎日の生活の中での予防は必要だと思いました。そして、高齢者がどんな風に不自由なのか実感しました。



委員のなり手が少ない、と言われていました。大変だから、面倒だからと思われるかもしれませんが、得ることとたくさんあります。私も世の中の役に立っているという実感と喜び、普通では経験できないような知識の広がり、様々な人々との触れ合いと学び、小さな家庭の中や、狭い場所では得られないことです。一歩外に出て、様々な方々と触れ合い、知識を深めていけるのは大きな喜びだと思っています。そして委員を希望してくださる方が増えますようにと願っています。

大久保地区民生委員児童委員協議会
会長 森田恵美子

委員をやってほしい



どんな活動をしているの??

新宿区では、ひとり暮らしの高齢者(希望者)に情報誌「ぬくもりだより」を月2回ボランティアによって配布しています。「民生委員・児童委員」(以下委員)には、それぞれ担当区域がありますが、私たちはその対象者の状況を知るために年に2回は「ぬくもりだより」を持って訪問します。

また、地域と学校をつなぐ活動として、公立小中学校とも連絡を取り合い、先生方と子どもたちについて懇談会も持っています。新宿区独自の活動としてその年に生まれた赤ちゃんを訪問し、赤ちゃんとお母さんが健やかに暮らしていることを確認します。高齢者のお困りごとの相談を受けたときは、速やかに「高齢者総合相談センター」などそれぞれの機関につなぎ、解決を図ります。心配ごとでも安心して話すことができるように、委員には守秘義務がありますので、困ったことがありましたら安心してご相談ください。

委員は、いざというときに障害者福祉や生活保護のこと、そして災害時に助けが必要なる人について学び、把握し、知識を深めています。毎月の定例会では活発な議論を行い、スムーズな活動を行うために協力しあっています。



民生委員とは

正確には「民生委員・児童委員」といいます。高齢者・障害者・生活困窮者に関わるのが民生委員、子どもたち全般に関わることが児童委員です。新宿にお住まいのみなさんが安心して暮らせるように、幅広い世代の方に対して様々な地域サービス、関係機関への「つなぎ役」「相談役」としての役割を担っています。任期は3年です。そして、また別に子ども専門の活動をする「主任児童委員」もおります。

ご

存

知

で

す

か

?



高齢者総合相談センターのこと

1. 誰が利用できるの?

高齢者(65歳以上)及び40歳~64歳の特定疾病(若年性認知症・脊柱管狭窄症等)のある人

2. どんな支援を受けられるの?

①介護保険サービスを利用する場合

高齢者は介護保険申請をします。その後介護認定(要支援・要介護)を受け、生活に合ったサービスを相談して提供します。

②介護保険外サービス

- ア 敬老杖の支給
- イ 補聴器の支給または、補聴器購入費の助成
- ウ 見守りキーホルダー配布 等

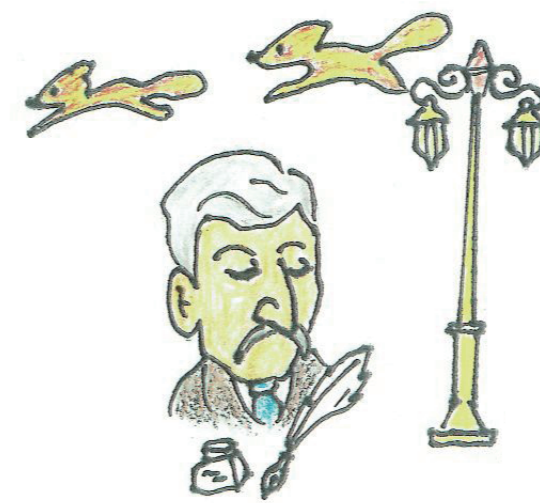
どこに相談したら良いか、わからないときも安心して相談できます。相談は、無料です。



大久保風土記

小泉八雲と西大久保の家

小泉八雲ことラフカディオ・ハーンが西大久保に移ってきたのは、明治35年3月のことです。大久保小学校のお隣の800坪という広大な地所は旧板倉子爵邸で、和風のお屋敷、裏庭に竹藪もありました。



引っ越しの荷をほどいている時、窓辺に鶯が飛んできて鳴くので、妻のセツが喜んでみると、ハーンはこう言ったそうです。

「なんぼう可愛い鳥、しかしあの声を私この家で三春以上聴くことができるでしょうか?むずかしいでしょう。」

明治37年春、ハーンは、大久保小学校の父兄懇話会に呼ばれ、「西洋と日本の家庭教育」と題する講演を行っています。同校に通っていた長男の一雄によると、講演を依頼したのは、9代目校長の片山久吉先生だったそうです。講演の後、ハーンは教員室に迎えられ、西大久保村の村長や助役、そして、他校の校長とも親交を深めました。

有名な「怪談」も、西大久保の家で書かれました。ハーンは、とりわけ「耳なし芳一」が気に入っていたようで、「それから書斎の竹藪で、夜、笹の葉ずれがサラサラと致しますと『あれ、平家が亡びて行きます』とか、風の音を聞いて『壇の浦の波の音です』と真面目に耳をすましていました。」と、セツは書き残しています。

明治37年9月、54歳の時、狭心症のため、ハーンは自宅で息を引き取ります。西大久保に住んだのは、わずか二年半ほど。自ら口にしていた通り、鶯の声を「三春以上」聴くことはできませんでした。

ハーンの死後、西大久保の家で、一雄たちに英語を教えていたのが、アメリカ人のレオニー・ギルモアです。レオニーは幼い息子を連れてきていました。それが、のちに世界的彫刻家となるイサム・ノグチです。セツは英語ができず、レオニーも日本語がわからなかったため、一雄やイサムが通訳をしていたようですが、セツは、異国で暮らすレオニーのことをとても気に入っていたといえます。

そのセツも、昭和7年、この西大久保の家で、64歳の生涯を閉じました。

